



発行
東北情報インフラユニオン
仙台市若林区新寺一丁目2番7号
TEL:022-297-5196
FAX:022-297-5198
発行責任者:石川 亨
編集責任者:村上 良智

2020年！笑顔で帰ろう！

新春のお慶びを申し上げます。また、日々現場作業に従事する皆様方におかれましては、厳しい作業環境の中、現場第一線における安全の確保にご尽力頂いておりますことに、心から敬意を表します。

昨年は全国的に人身事故が続発している中、東北管内において残念ながら高所からの転落、脚立からの転倒等の人身事故が発生しております。インフラ東北としても、本年は改めて安全確保は企業存続の最低条件であることを肝に命じるとともに、引き続きカウンターパートナーとしての労働組合の役割を積極的に果たし、現場第一線における安全労働確立、安全意識の高揚に向け、各種取り組みを展開していきたいと思っております。職場の皆様におかれましては安全労働確立に向けた取り組みへの積極的な参加をお願いいたします。

また、本機関紙「きらめき」も皆さんに読みやすい・読みたくなる紙面をめざすとともに、常日頃からさまざまな危険と隣り合わせで作業されている方々に対し、少しでも安全意識の高揚に繋がるよう内容充実に努めていきたいと思っております。

今年一年、皆様の職場からは事故を発生させないよう、引き続き安全の各種取り組みにご協力をよろしくお願いいたします。

通建連合『労働安全衛生統一行動』

期 間：2020年1月20日～2月21日

通建連合は、重症・軽傷を含め続発する労働災害の連鎖を断ち切り安全安心して働ける職場環境の確保をめざすことを目的に「労働安全衛生統一行動」を設定し、安全グッズ等を配布しながら安全労働に向けた注意喚起を行うとともに、健康管理等についても呼び掛けを行う等、加盟労組夫々が工夫した取り組みを展開することとしております。

インフラ東北としても、通建連合の取り組み趣旨を踏まえ、2月3日～21日の期間において、各職場における安全衛生推進会議（TTK）・安全工法委員会（大和電設）、朝礼等に参加し、現場第一線の作業員の方々に対し注意喚起を実施するとともに、対話を重視した安全パトロールを展開し、一人ひとりの安全意識高揚に向けた啓蒙活動を実施していくこととします。

期間内における労使合同パトロールについては、現場の皆様の声をお聞きいただきながら、今後の安全労働確立に向けた取り組みに繋げていきたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。





“台風 15・19 号災害復旧に携わった方々の声”



近年、大型台風や記録的な豪雨等により各地で甚大な被害が発生しています。

そのような中で、昨年は台風 15 号・台風 19 号等の暴風・大雨等により通信設備に大きな被害を受けたことから、一日も早い復旧に向け東北で働く我々の仲間が災害復旧工事に従事しましたのでご紹介いたします。

氏 名：上野 慎矢さん

会 社 名：山形通信工事

場 所：千葉県 銚子市

作業内容：故障修理業務

感 想：

初めての災害支援でしたので、不安な気持ちと早く直さなければならないという焦る気持ちを持ちつつ、現場へと向かいました。

台風の影響で屋根や壁が飛ばされブルーシートで覆われている家、倒木で切れたケーブルや倒壊した家など悲惨な光景が目に入り込んできました。

しかも、お客様の現場に向かう途中道路が土砂崩れや倒木などで通工できない状況となっており、申告順に故障を周回して、お客様との時間や日にちの約束が出来ない状態でしたので、中々思うように復旧作業が進まない状況でした。

一件一件修理していく中で、お客様の感謝の言葉を頂いたり、笑顔を見ていくうちに、不安な気持ちも徐々に和らいでいき、こちらが励まされたような気がしました。

この経験を活かし、今後の業務に取り組んでいきたいと思えます。



氏 名：永洞 淳さん

会 社 名：盛岡電話工事

場 所：千葉県 香取市

作業内容：故障修理業務

感 想：

台風の影響で何処のお宅でもブルーシートだらけの大変な状況の中、現地の方々は作業に行っても優しく接してくれたことが特に印象に残りました。

現場としては 1 つの拠点でも 50 班体制と大規模体制で作業に取り組み、大変な現場でしたが精一杯作業に取り組みました。



氏 名：中森 拓巳

会 社 名：シグマックス

場 所：福島県 須賀川市

作業内容：光接続作業

感 想：

台風 19 号が過ぎた後の現場は姿を変えていました。倒れかけている電柱や、流されたケーブル、設備も強風の影響で滅茶苦茶になっていました。復旧に行くにも土砂崩れや道路の崩落や水が引かない状況から通工できない状況にあり、思うように作業が進まない状況でした。復旧作業の中には私が初めてやる作業も多く、自分の知識不足、技量不足を感じていました。しかし、大変な状況の中でも先輩方は優しく教えて下さり、地下ケーブルの接続や、川付近の架空設備の接続等一つひとつ復旧させていきました。復旧作業も後半になるにつれ大きな仕事になり疲労が溜まっていました。

そんな状況でも一日でも早く復旧させようと作業を進める先輩、上司の姿に私も背中を押されました。復旧作業が完了した時の達成感と現場の一体感は今でも忘れません。

あのような災害が今後起きないことを祈るばかりですが、もし、災害がまた起きてしまったら、この経験を活かし、迅速に復旧に対応したいです。



台風被害の状況並びに復旧状況

